



# 人生の分かれ道

5月27日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 5月27日のおはなし「人生の分かれ道」

---

T字路の縦棒の道をずんずん進んで突き当たりのところまで行くとああT字路だなと思うけど、横棒の道の方を歩いているとしたら道の片側に脇道があってもいちいちそれをT字路だとは思わなくて、ああ片っ方だけに脇道があるなあと思うくらいで、それは向きがTの字を横倒しにしているから思わないのかと考えたけれど、じゃあそれをト字路だと思うかというとなんなことも思わない。

生理が近くなるとどうしたわけかT字路が厄介になってしまって、何度も来たことがある慣れたはずの道でも突き当たりのところで、必ずあれ？右だっけ？左だっけ？となってしまうんだけど、そんなの馬鹿げてるのはわたしだってわかっていて、何しろふだんは全然何の問題もなく考えるまでもなく正しい道を選べるし、そんな時にはわたし自身がどうして時おりT字路で方向を失う理由が分からない。

当人にだって理由が分からないものだから他人にはますます理解できないのはもちろん分かるけれど、だからといって頭ごなしに「そんなバカな話があるものか」と否定されると大変に腹立たしく、また理解されないことに傷つきもし、かといってムキになってその現象について解説しようにも当の本人にだって理由が分からないのだ、説明できるわけがない。

考えたら今まで三人ばかりの男性と付き合ってきて、最初の内は何の問題もなく、というか我を失っているという点ではある意味問題だらけかもしれないが、とにかく心身ともに無我夢中になっているうちはいいのだけれど、やがてだんだん落ち着いてくるとこのT字路問題がだんだんに膨れ上がってお互いの無理解と理不尽感を高めて破局を招いてきたのは間違いない。

だったらそんなT字路問題なんて厄介な話はそもそも話題に上げなければ良さそうなものだけれど、だいたい付き合い始めて二年になるかならないかのところで必ずわたしがT字路問題に遭遇して約束の時間に相手の元に訪れることができず、大変遅くなってからカンカンに怒る男の元に訪れた時にはわたしもうパニック状態なものでついT字路問題を口にしてしまうのだ。

世の中からT字路なんてなくなってしまうればいいのと思うけれど、もちろんわたし一人のためにT字路がなくなるなんてことはありっこないので、最近ではPMS時の待ち合わせの前にはグーグルマップを使って必ず付近にT字路がないか確認して、T字路を使わないコースを選び出し、事前にストリートビューで歩くコースのシミュレーションまでするようになった。

女は地図が読めないなんて言うけれどあれは多分嘘で、わたしみたいにグーグルマップとかを使って現実の道路と地図をばっちり関連づけることができる女はいくらでもいるのだけれど、たとえばわたしにはT字路があるように、誰かにとってそれは十字路で、誰かのは斜めの道で、

誰かは坂道で誰かは六叉路でと、意味も理由もなく道を失うということなのではないかと思う。

さていまわたしは人生のT字路に直面していて、通常人生の分かれ道と言えY字路というのが普通なのだけれど、いまのわたしの状況はある旧家の男のプロポーズを受けて職業を捨てて一族経営のプランテーションを切り盛りする道を選ぶか、たまたま降ってわいた外資系コンサル会社からのヘッドハンティングを受けて最低数年間を仕事に没頭する道を選ぶかというまさに真逆の選択肢、T字路な状況なのだ。

そして間の悪いことにいまはPMSの真っ最中で、普段のわたしなら二つの道のどちらが望ましいか迷うまでもなくきっぱりとわかるはずなのに、それが全く思いも浮かばず、どうしたものか考えれば考えるほど堂々巡りをしてしまって、このままでは大いに間違った選択をしてしまうかもしれないし、道に迷うにしても立ちすくむにしても両方の選択肢が時間切れで遠のいてしまう恐れさえある。

時間切れ？

そうか時間切れか。

PMSかそうじゃないかかなんて関係ない。

どっちみち時間切れなのかもしれない。

そう気づいた瞬間にT字路が目の前から消える。

不意にわたしはT字路の上に浮かび上がる。

もう直角の三叉路で立ちすくむ女ではない。

これが夢の中なのか目が覚める思いなのかわからない。

わたしたちにはもうあんまり時間が残されていない。

わたしが迷ってしようといまいと関係なく時間はないのだ。

決断できずにいるとそのうち死の灰が降って来る。

破産が連鎖し資本主義経済が破綻する。

争乱が起こり怪我人病人死人が出る。

T字路をつくっていた道も壁も意味を持たなくなる。

その時いまある生活がそのまま残るとは到底思えない。

いっそ勝手に道を切り拓いて十字路にして突き進んでしまおうか。

いっそ町を塗りつぶして滑走路にして飛び立ってしまおうか。

(「T字路」 ordered by suzumena-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

## 人生の分かれ道

<http://p.booklog.jp/book/37545>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37545>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37545>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.